

あぐり d e なんとん

南丹農業改良普及センターだより

テーマ「普及計画これからの3か年」

令和7年2月
第27号



Topics

- ・普及センターの活動について
- ・農作業安全、農薬適正使用について
- ・表彰者紹介
- ・退任・新任農業士の紹介
- ・New Face(新任所長・新規採用職員紹介)

普及センターからのお知らせ

平成16年から「普及センターだより」として、農業現場のうごきや、普及センターの取組等の情報を皆さまにお届けしておりましたが、環境負荷低減の観点から、紙面での発行を昨年度で終了させていただくことになりました。今後は、普及センターのメール配信（登録方法は右のQRから空メールを送信）やホームページで情報を発信してまいりますので、引き続きご覧くださいますよう、よろしくお願いいたします。

南丹農業改良普及センターHP <https://www.pref.kyoto.jp/nantan/no-nokai/>



普及計画の紹介

当普及センターでは令和6年度からの3年間の取組みとして「人づくり」、「ものづくり」及び「食と農の安心安全づくり」を3本柱とし、各課題ごとにチーム活動を行っています。今号では、各課題の取組状況についてご紹介します。

食と農の安心・安全づくり

京都府では有機農業、京都こだわり栽培など化学肥料・農薬を過度に使用しない農業を推進しています。しかし、これら農業で活用される技術は、府内で実施事例が少ないものもあります。そこで、技術実証を経て、普及できるアイテムとするとともに、生産物の販路拡大支援、学校給食に供給する米の生産確立に取り組んでいます。



需要に応えるものづくり

近年気候変動により集中豪雨や高温干ばつ等が多発しており、作物生産が難しくなっています。特に地域の特産である黒大豆・黒大豆エダマメは収量・品質ともに厳しい状況が続いています。このような状況下で、農産物の安定生産を支援するため、黒大豆・黒大豆エダマメに対するかん水・遅まきの技術確認とその波及、環境負荷低減に向けた緑肥利用支援および気候変動に適応した技術確立という3つの柱を中心に現地実証を行い、普及を進めます。



農業・農村を支える人づくり

南丹地域の農業産出額は、京都市内全体の26%を占めており、また丹波ブランドとして有名な黒大豆、小豆、栗の産地でもあります。しかし高齢化や農業従事者の減少により産地の維持が難しくなっています。このような状況の中、農業に携わり地域の担い手となる方を増やしていくことを目的に、令和6年度～8年度の3年間、『京都丹波就農サポート講座』と『経営基礎講座』の開催を計画しています。



京都丹波農業を支える担い手育成

普及センターでは、新規就農希望者や就農後間もない人等を対象に『京都丹波就農サポート講座』を開催しています。これは平成8年度から名称を変えながら継続している農業の基礎知識習得を目標とした講座です。栽培技術や病害虫防除など座学を中心に、先輩農家のほ場見学や受講生同士の横の繋がりを作るための交流会も開催しています。令和6年度は19名の方が受講されました。すでに農業に従事されている方や研修中の方、退職後に本格的に取り組もうと思ってる方等、様々な状況の方に受講していただきました。「基礎を幅広く学べてよかった。」「生産者の圃場を見たのが参考になった。」「等の感想がありました。今後の南丹地域の農業の担い手となっていたことを期待しています。

また、令和6年度から、就農後数年経ち、更なる経営管理の知識習得を目指す方を対象に『農業経営基礎講座』を開講しました。講座では、経営状況を把握・分析するとともに、中長期的な経営プランを策定して行動することを目指しています。令和6年度は10名の方が受講されました。栽培面だけでなく、経営面も考えて、さらにレベルアップした農業経営を目指していただきます。

どちらの講座も令和7年度も開講を予定しています。サポート講座の受講生募集案内を掲載していますので、併せてご覧ください。



農業経営基礎講座のようす

気象条件に適応した栽培技術の定着に向けて

令和6年度は令和5年度に引き続き夏期から秋期にかけて高温・少雨となり厳しい気象条件となりました。このような環境下での安定的な栽培に向け、黒大豆栽培のうね間かん水の実証やミズナの品種試験等を行いました。黒大豆のうね間かん水では、一定の収量を確保することができた事例もあつた一方で、大きなほ場では端まで水が行き渡らない等といった課題も明らかになりました。

また、化学肥料の価格高騰や供給の不安定化に対応する技術として、緑肥を活用した水稻栽培の実証も行いました。化学肥料を施用したほ場と緑肥すき込みによるほ場の比較を行ったところ、収量・品質ともに同等という結果が得られました。

令和7年度は黒大豆・黒大豆エダマメの安定生産に向け、効率的なかん水方法の実証を行うとともに今年度につき、かん水技術研修会を実施し技術の普及を図っていきます。

緑肥利用支援では、環境負荷を低減した農作物生産の拡大を目指し、緑肥活用技術の普及を進めていきます。

今後も厳しい気象条件が続くと想定して、地域の特性に則した安定的な栽培技術の確立のために、試験研究機関等で実証された技術を基に様々な技術の実証、普及推進を行います。



かん水方法について現地で実演

環境負荷低減を目指して

近年、猛暑やゲリラ豪雨など気候変動や生物多様性の低下など、農業を取り巻く環境が大きく変化しています。農業における環境負荷の低減を目指すため、今年度から3つの取組みを進めています。

1つ目は、化学肥料・農薬の代替技術の普及活動です。緑肥作物に着目し、肥料効果だけでなく病害虫や雑草の抑制効果について府生物資源研究センターと共同で調査に取り組み、一定の成果を得ました。さらに来年度は施設野菜の害虫対策として土着天敵を用い、化学農薬だけに頼らない防除技術の検証に取り組めます。

2つ目は、有機農産物など特徴ある生産物の販路拡大です。このような生産物は管理のコスト等が高く、適切な評価での販売が必要です。生産物の特徴を消費者に伝えられるよう、情報発信にあたつての技能向上等、販売活動に活用できる支援を行います。3つ目は、オーガニックビレッジ宣言を行った亀岡市を中心とした支援です。亀岡市の学校給食米は有機JAS認証に相当する米を目指す中、低収や雑草多発が問題となつていきます。そこで、収量確保のため雑草抑制法や有機JAS認証栽培でも認められる施肥の実証・普及を中心に取組みを進めます。

その他、化学肥料・農薬を慣行から3割減らす「京都府みどり認定」の推進にも取り組んでいます。ので、関心をお持ちの方は普及センターまで御連絡ください。



乗用除草機の実演風景

トラクタの運転時はヘルメット・シートベルトの着用を！

農作業中の死亡事故は、農業機械の操作に伴うものが7割を占め、その約半数が乗用型トラクタによるものです。

運転時にはヘルメット・シートベルトを着用し、重大な事故の発生を未然に防ぎましょう。

農薬使用は安全に！

農薬の使用に際しては適用作物や使用濃度に十分ご注意ください。農薬の使用前にはラベルを改めて確認し、使用後は忘れずに帳簿に記録してください。またドリフトによる誤散布に十分注意し、風の強い日は薬剤散布を延期する等の措置を取ってください。

令和6年度表彰者の紹介

黄綬褒章受章者

人見 政章 (亀岡市)

眞継 公哉 (亀岡市)

農事功績表彰者

(公益社団法人 大日本農会)

藤村 幸二 (亀岡市)

京都府農林水産業功労者表彰

【亀岡市】黒田 幹男 (農業)

矢倉 義昭 (農業)

【南丹市】小槻 忠行 (林業)

川見 一郎 (農業)

小中 昭 (水産業)

農事組合法人

竹井 宮農組合 (農業)

【京丹波町】鈴木 基司 (畜産業)

道の駅

「京丹波 味夢の里」

農産物等直売所

出荷者協議会

若手農林漁業者表彰

【亀岡市】中川 喬之 (農業)

中川 剛志 (林業)

【南丹市】内藤 正仁・内藤 美香 (農業)

【亀岡市】平井 賢次 (農の匠)

「アサヒメロンの栽培」

農山漁村伝承優秀技能(匠)認定者

【亀岡市】平井 賢次 (農の匠)

「アサヒメロンの栽培」

退任農業主のみなさん

お世話になりました

青年農業主

戸田 康裕 (亀岡)

青年農業主

中西 文彦 (南丹市)

指導農業主

片山 里史 (京丹波町)

新任農業主のみなさん

指導農業主

堤 博明 (南丹市)



青年農業主

丸井 諒平 (南丹市)

新任所長・新規採用職員紹介

新任所長

松本 瑠美

新規採用職員

松田 早詠

今年度、当普及センターに配属になりました松本です。京都市や山城での勤務が長く、南丹地域の配属は初めてです。

南丹地域は、農業者の方々の卓越した技術により京のブランド産品をはじめとする多くの農産物が生産されておられ「京の台所」を支える食の宝庫です。

普及センター職員として、農業者の方々の生産を「守る」「つなぐ」「広げる」お手伝いや南丹地域の農産物ファンとして「推し活」を進めていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いします。



4月から南丹農業改良普及センターに配属になりました。亀岡市ひえ田野町、吉川町、旧亀岡町を担当させていただきます。しばらく京都から離れていたの、久しぶりの京都の暑さ、寒さに身に染みて感じています。

分からないことばかりで、周囲の方々に助けられながら毎日過ごしています。農家の方々と先輩方から学びながら、一人前の普及員になれるように頑張ります！皆様のお役に立てるよう精進していきますので、よろしくお願いします。

農業の基礎知識が学べる「令和7年度京都丹波就農サポート講座」の受講生を募集します。

- 日時 令和7年5月～10月までの平日午後開催(全7回予定)
- 場所 京都府園部総合庁舎ほか
- 対象
 - ・原則、全日程出席可能な方
 - ・南丹地域の農業の担い手として基礎技術習得が必要な方(概ね50歳未満)
 - ・障がい者就労支援施設の支援員
- 内容 農業に関する基本的な事項(栽培技術、土壌肥料、病虫害防除等) ※関連記事はP2に掲載
- 定員 15人程度(書類選考の上、5月上旬に受講決定通知を送付します)
- 募集期間 3月21日(金)～4月18日(金)に申込書に必要事項を記入の上、郵送、持参、FAX、電子メールのいずれかで普及センターまで申し込みください。(申込書、カリキュラム等詳細は2月下旬～3月上旬ころにHPにアップします。)